

ア. 学修時間・学修実態

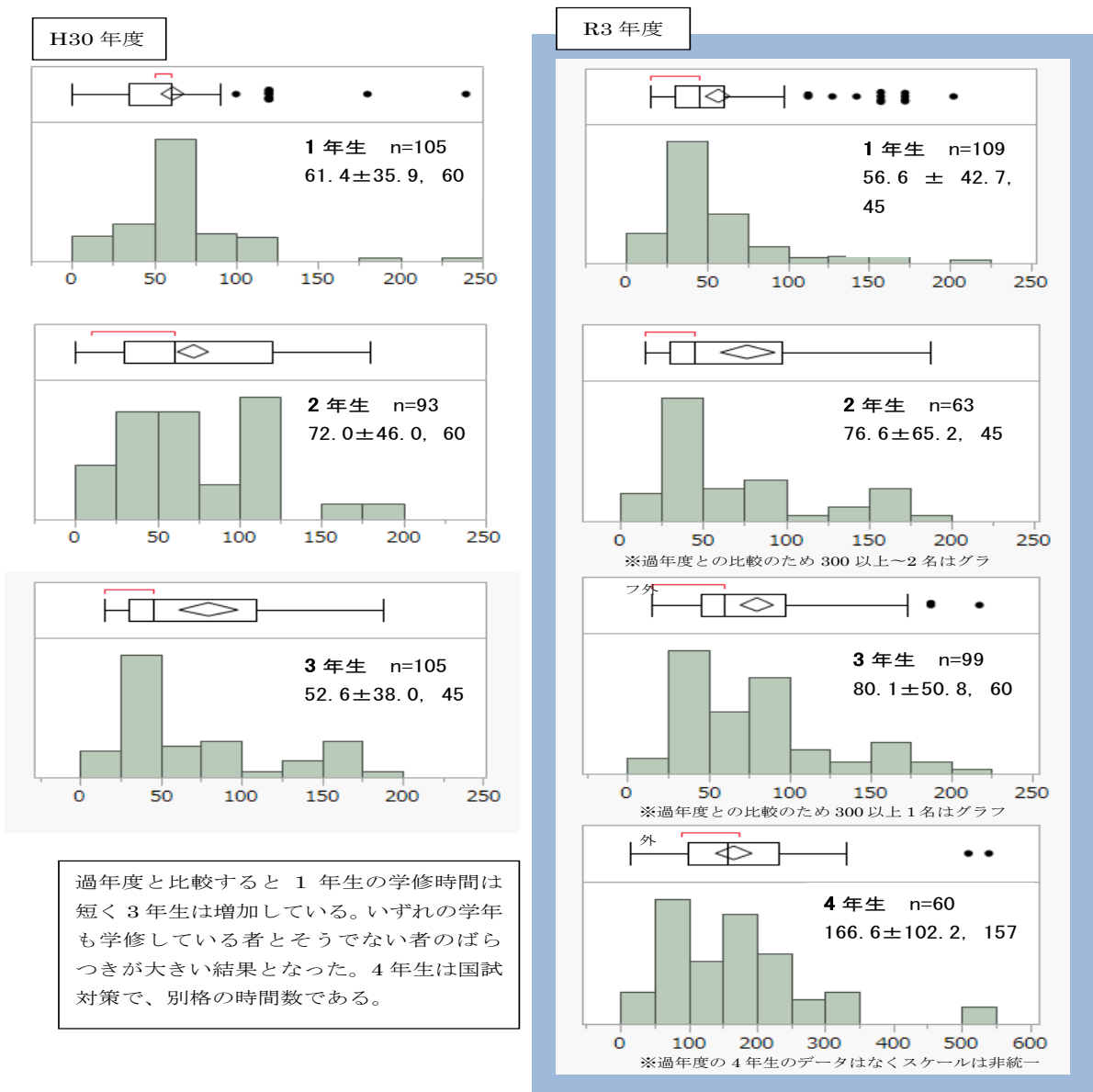
アー1 学修時間

1. 自己学修時間の学年比較及び過年度比較

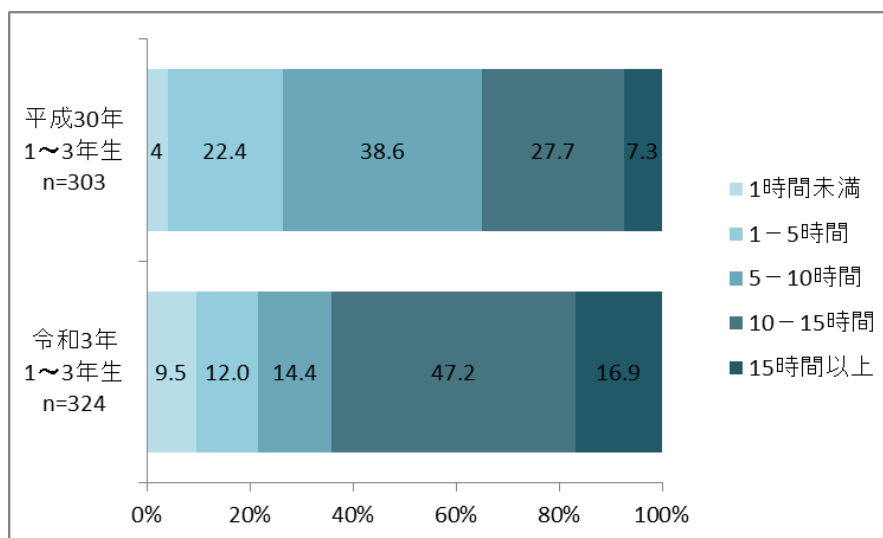
本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間（分）」についても調査を実施しています。学年別に集計した結果（令和3年10月調査）は以下のとおりです。

学修行動調査における授業以外の1日あたりの自己学修時間（分）

※ヒストグラムの横軸は時間（分）、縦軸は度数を表す



1 週間平均自己学習時間 全学生（1～3 年生）年度比較



平成 30 年度は 5～10 時間が最も多かったが、令和 3 年度では 10～15 時間が最も多く、全体的に自己学修時間は増加している。コロナ禍の影響で、自宅における自己学修の機会の増加にもつながっている可能性がある。一方で、1 時間未満の学生は増えていることから、学修習慣が身につけていない学生にとっては、自律的な学修への支援が必要であろう。

アー2 留学率

年度	留学者数（留学率）
令和3年度（前期）	該当なし（0%）
令和2年度	該当なし（0%）
令和元年度	該当なし（0%）

イ. 授業評価アンケート結果

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。アンケートは12 の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうでしたか」に対する集計結果（令和二年度調査；看護学部集計分）を公表（表1）します。

令和元年度の総合評価結果（令和元年度実績（表2）：平均値4.18、中央値4.22）と比較し、若干の低下となりましたが、過年度と比較しても、ほぼ同程度の結果となり、また、

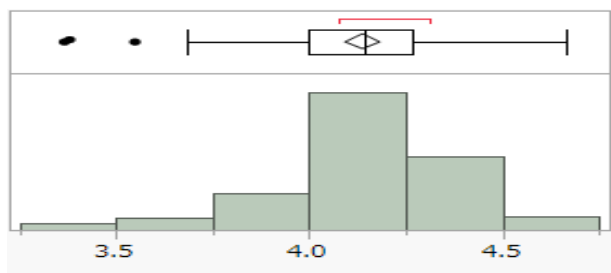
評価4は「よい」を意味しており、平均・中央値とも4「よい」を超える結果となりました。

各科目単位の結果を科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで授業改善に繋げていきます。

(表1)

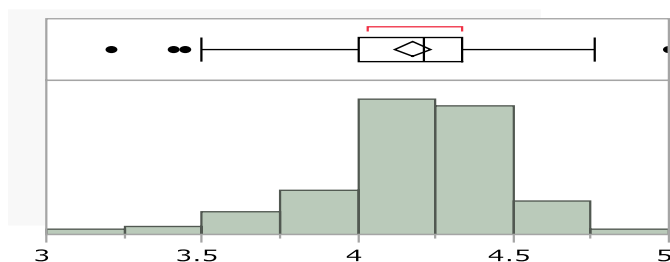
『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和2年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	106
平均	4.14
標準偏差	0.23
中央値	4.14
範囲	3.37- 4.67

(表2：令和元 年度)



科目数	106
平均	4.18
標準偏差	0.29
中央値	4.22
範囲	3.21- 5.00

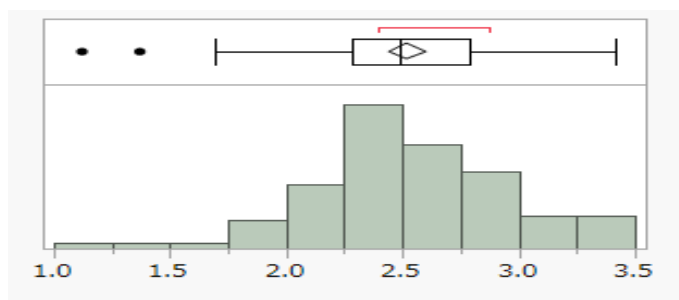
ウ 学修成果

ウー1 学内試験結果：GPA分布

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する1単位当たりのGPの平均値（GPA）を採用しています。本学では、通常の5段階評価（10点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように1点単位でのGPAを計算しています。（例：78点のGPは $(78-55) \div 10 = 2.3$ ）

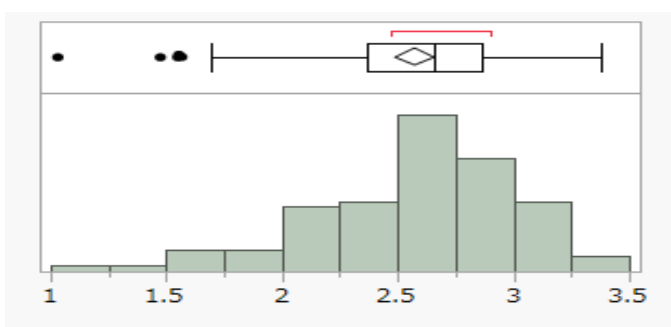
以下に、令和2年度に各学年（看護学部）が履修した必修科目のGPAの分布状況を示します。令和元年度の結果と比較すると、全体的に中央値がやや上昇しました（令和元年度中央値：学部1年 2.1、学部2年 2.5、学部3年 2.7、学部4年 2.8）。また、各学年の科目内容にも影響しますが、上級学年になるにつれて、中央値が上昇する傾向が見られました。なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

令和二年度 1 年生GPA 分布 (1 年次必修科目)



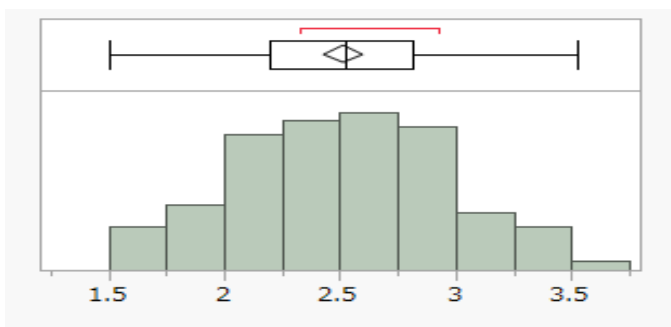
最大値	3.4
四分位点	2.8
中央値	2.5
四分位点	2.3
最小値	1.1

令和二年度 2 年生 GPA 分布 (2 年次必修科目)



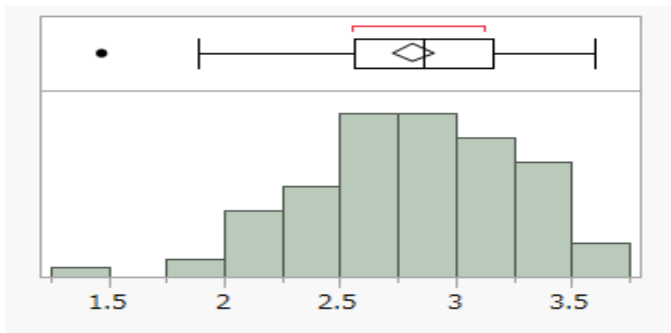
最大値	3.4
四分位点	2.9
中央値	2.7
四分位点	2.4
最小値	1.0

令和二年度3年生GPA分布 (2年次必修科目)



最大値	3.5
四分位点	2.8
中央値	2.5
四分位点	2.2
最小値	1.5

令和二年度4年生GPA分布 (3 年後期～4 年次科目必修科目)



最大値	3.6
四分位点	3.2
中央値	2.9
四分位点	2.6
最小値	1.5

ウー2 単位修得状況

令和2年度における各学年の必修科目、選択・自由科目の平均取得単位数は以下の表のとおりです。

本学では、教育課程を体系的に学ぶことを目的に、必修科目については、全科目について履修すべき年次を指定しているため、原則として学生間に差は生じません。

また、選択科目については、配当年次の関係上1年次での履修が多く、2年次以降の選択・自由科目については、コース履修による自由科目が多くを占めています。

なお、コース履修者は必修科目以外に自由科目として、保健師コースは3・4年次に16単位、国際看護コースは3・4年次に3単位以上、グローバルスタディーズコースは1～3年次に5単位以上を履修します。

<各学年での平均取得単位数>

学年／履修区分	必修科目	選択・自由科目 (最小値～最大値)	合計
看護学科1年	31	10 (6～13)	41
看護学科2年	40	1 (1～2)	41
看護学科3年	20 (※3)	0 (0～4)	20
看護学科4年	24 (※3)	3 (0～14)	27

※1. 上記は進級者の年間取得単位の平均値

※2. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う閉講（中止）となった科目の単位数は除外
(2年次「English Practice Abroad」(3単位)、3・4年次「フィールドスタディ I・II」
(各2単位))

※3. 3～4年次に渡る科目（実習・研究）は全学生4年次に計上

※4. 小数点第1位を四捨五入

ウー3 到達度自己評価

看護学部4年生に対し、自身の4年間の学びを振り返り、到達目標への達成度を自己評価するアンケートを実施しています。

平成27年度～令和2年度結果についてはグラフに示すとおりです。

令和2年度アンケート結果の特徴として、すべての到達目標において、98%以上の学生が当てはまると回答しており、特に1, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9番目の項目においては、80%以上の学生が「非常に当てはまる」、「かなり当てはまる」と回答していただきました。

この中で「非常に当てはまる」と最も多く回答されていたのは、3「人間の心理・行動への関心」、7「看護の展開」、8「看護実践の探求」でした。

また、自由記載においては、「カトリックの愛の精神に基づく看護を学ぶことができた」といった内容が複数見受けられ、学生に対し、建学の精神に基づく教育が根付いていると考えます。

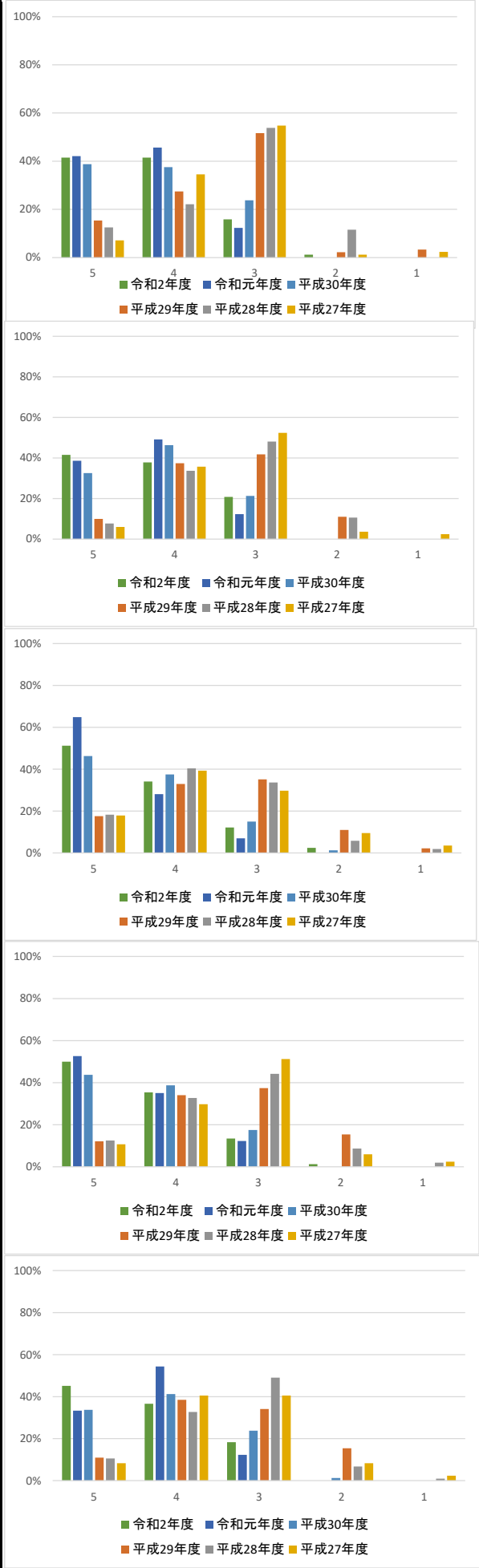
本結果で示された到達目標ごとの到達度を踏まえ、更なる教育・学生支援の向上に努めるとともに、アンケート(学生の自己評価)のみでなく、成績評価等の客観的指標も踏まえた、分析・改善への取り組みにも努めてまいります。

卒業時の到達目標達成度アンケート調査結果

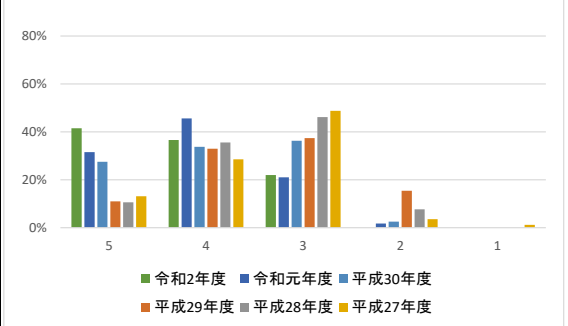
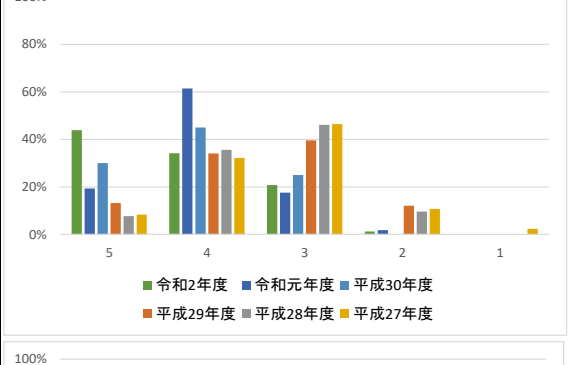
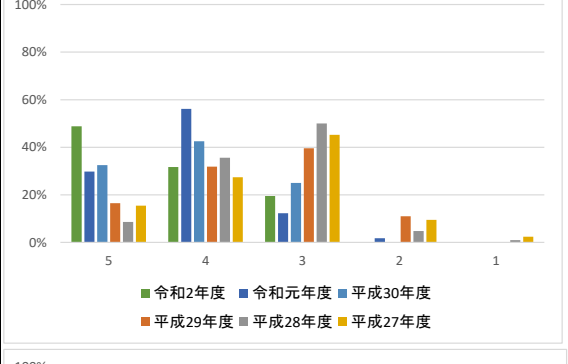
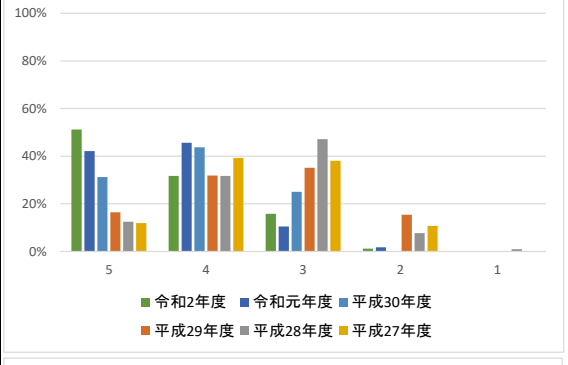
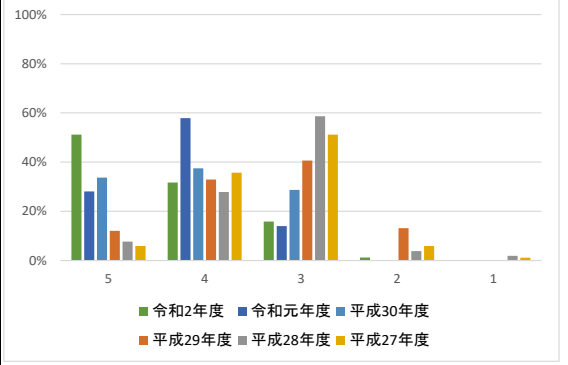
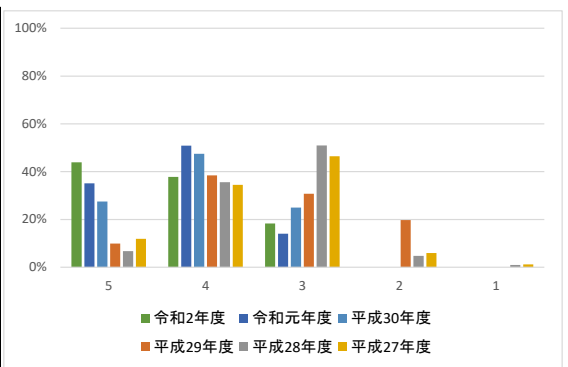
(回答率：令和2年度82.8%、令和元年度54.8%、平成30年度 70.2%、平成29年度 83.5%、平成28年度 92.0%、平成27年度 70.6%)

5：非常に当てはまる 4：かなり当てはまる 3：大体当てはまる
2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない

No.	到達目標	選択肢							合計
		5	4	3	2	1	未記入		
1	「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の価値、人間の尊厳について考え、保健医療福祉における全人的ケアの基本を身につけることができるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
		令和2年度(2021.3月)卒業生	34	34	13	1	0	0	82(件)
		令和元年度(2020.3月)卒業生	24	26	7	0	0	0	57(件)
		平成30年度(2019.3月)卒業生	31	30	19	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	14	25	47	2	3	0	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	23	56	12	0	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	6	29	46	1	2	0	84(件)
		卒業生	7.14%	34.52%	54.76%	1.19%	2.38%	0.00%	100.00%
2	医療技術の進歩に伴う人間の生存と派生する諸問題を学び、人間の尊厳を尊重した社会の在り方を考え、倫理的本質を探究することができるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
		令和2年度(2021.3月)卒業生	34	31	17	0	0	0	82(件)
		令和元年度(2020.3月)卒業生	22	28	7	0	0	0	57(件)
		平成30年度(2019.3月)卒業生	26	37	17	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	9	34	38	10	0	0	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	35	50	11	0	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	5	30	44	3	2	0	84(件)
		卒業生	5.95%	35.71%	52.38%	3.57%	2.38%	0.00%	100.00%
3	他者との相互作用、人間関係の諸側面について理解し、人間の心理や行動に感心を持つことができるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
		令和2年度(2021.3月)卒業生	42	28	10	2	0	0	82(件)
		令和元年度(2020.3月)卒業生	37	16	4	0	0	0	57(件)
		平成30年度(2019.3月)卒業生	37	30	12	1	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	16	30	32	10	2	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	19	42	35	6	2	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	15	33	25	8	3	0	84(件)
		卒業生	17.86%	39.29%	29.76%	9.52%	3.57%	0.00%	100.00%
4	ケアリングを基本概念とする理論であるロイ適応看護モデルを理解することができるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
		令和2年度(2021.3月)卒業生	41	29	11	1	0	0	82(件)
		令和元年度(2020.3月)卒業生	30	20	7	0	0	0	57(件)
		平成30年度(2019.3月)卒業生	35	31	14	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	11	31	34	14	0	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	34	46	9	2	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	9	25	43	5	2	0	84(件)
		卒業生	10.71%	29.76%	51.19%	5.95%	2.38%	0.00%	100.00%
5	人間の生命現象、疾病の原因や成り立ちを学び、健康の維持、増進に向けての医療の基礎を習得できるようになった。	回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
		令和2年度(2021.3月)卒業生	37	30	15	0	0	0	82(件)
		令和元年度(2020.3月)卒業生	19	31	7	0	0	0	57(件)
		平成30年度(2019.3月)卒業生	27	33	19	1	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	10	35	31	14	0	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	11	34	51	7	1	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	7	34	34	7	2	0	84(件)
		卒業生	8.33%	40.48%	40.48%	8.33%	2.38%	0.00%	100.00%



	選択肢	回答年度	5					4				3			2		1	未記入	合計	
			5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1			
6	看護の概念、本質の理解を基盤に、小児期から老年期に至る発達各期の人間の健康の維持、回復、増進を阻害する要因を理解し、看護介入のための知識、技術を習得できるようになった。	令和2年度(2021.3月)卒業生	36	31	15	0	0	0	82(件)	43.90%	37.80%	18.29%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
		令和元年度(2020.3月)卒業生	20	29	8	0	0	0	57(件)	35.09%	50.88%	14.04%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
		平成30年度(2019.3月)卒業生	22	38	20	0	0	0	80(件)	27.50%	47.50%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
		平成29年度(2018.3月)卒業生	9	35	28	18	0	1	91(件)	9.89%	38.46%	30.77%	19.78%	0.00%	1.10%	100.00%				
		平成28年度(2017.3月)卒業生	7	37	53	5	1	1	104(件)	6.73%	35.58%	50.96%	4.81%	0.96%	0.96%	100.00%				
		平成27年度(2016.3月)卒業生	10	29	39	5	1	0	84(件)	11.90%	34.52%	46.43%	5.95%	1.19%	0.00%	100.00%				
		合計																		
		7	保健医療福祉のそれぞれを必要とする段階において、看護学の体系的学びを実践学習のなかで展開することができるようになった。	令和2年度(2021.3月)卒業生	42	26	13	1	0	0	82(件)	51.22%	31.71%	15.85%	1.22%	0.00%	0.00%	100.00%		
令和元年度(2020.3月)卒業生	16			33	8	0	0	0	57(件)	28.07%	57.89%	14.04%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成30年度(2019.3月)卒業生	27			30	23	0	0	0	80(件)	33.75%	37.50%	28.75%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成29年度(2018.3月)卒業生	11			30	37	12	0	1	91(件)	12.09%	32.97%	40.66%	13.19%	0.00%	1.10%	100.00%				
平成28年度(2017.3月)卒業生	8			29	61	4	2	0	104(件)	7.69%	27.88%	58.65%	3.85%	1.92%	0.00%	100.00%				
平成27年度(2016.3月)卒業生	5			30	43	5	1	0	84(件)	5.95%	35.71%	51.19%	5.95%	1.19%	0.00%	100.00%				
合計																				
8	学習体験から課題を発見し、根拠ある看護実践について継続的に探求し学習していく能力を身につけることができるようになった。			令和2年度(2021.3月)卒業生	42	26	13	1	0	0	82(件)	51.22%	31.71%	15.85%	1.22%	0.00%	0.00%	100.00%		
		令和元年度(2020.3月)卒業生	24	26	6	1	0	0	57(件)	42.11%	45.61%	10.53%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%				
		平成30年度(2019.3月)卒業生	25	35	20	0	0	0	80(件)	31.25%	43.75%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
		平成29年度(2018.3月)卒業生	15	29	32	14	0	1	91(件)	16.48%	31.87%	35.16%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%				
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	33	49	8	1	0	104(件)	12.50%	31.73%	47.12%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%				
		平成27年度(2016.3月)卒業生	10	33	32	9	0	0	84(件)	11.90%	39.29%	38.10%	10.71%	0.00%	0.00%	100.00%				
		合計																		
		9	情報処理、危機管理、他の専門職種との協働を理解し、看護職の責務とともに医療安全管理の能力を身につけることができるようになった。	令和2年度(2021.3月)卒業生	40	26	16	0	0	0	82(件)	48.78%	31.71%	19.51%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%		
令和元年度(2020.3月)卒業生	17			32	7	1	0	0	57(件)	29.82%	56.14%	12.28%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成30年度(2019.3月)卒業生	26			34	20	0	0	0	80(件)	32.50%	42.50%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成29年度(2018.3月)卒業生	15			29	36	10	0	1	91(件)	16.48%	31.87%	39.56%	10.99%	0.00%	1.10%	100.00%				
平成28年度(2017.3月)卒業生	9			37	52	5	1	0	104(件)	8.65%	35.58%	50.00%	4.81%	0.96%	0.00%	100.00%				
平成27年度(2016.3月)卒業生	13			23	38	8	2	0	84(件)	15.48%	27.38%	45.24%	9.52%	2.38%	0.00%	100.00%				
合計																				
10	保健医療福祉制度、医療資源、医療経済について学び、批判的に吟味し、将来の課題と看護職の役割を見いだす能力を身につけることができるようになった。			令和2年度(2021.3月)卒業生	36	28	17	1	0	0	82(件)	43.90%	34.15%	20.73%	1.22%	0.00%	0.00%	100.00%		
		令和元年度(2020.3月)卒業生	11	35	10	1	0	0	57(件)	19.30%	61.40%	17.54%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%				
		平成30年度(2019.3月)卒業生	24	36	20	0	0	0	80(件)	30.00%	45.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				
		平成29年度(2018.3月)卒業生	12	31	36	11	0	1	91(件)	13.19%	34.07%	39.56%	12.09%	0.00%	1.10%	100.00%				
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	37	48	10	0	1	104(件)	7.69%	35.58%	46.15%	9.62%	0.00%	0.96%	100.00%				
		平成27年度(2016.3月)卒業生	7	27	39	9	2	0	84(件)	8.33%	32.14%	46.43%	10.71%	2.38%	0.00%	100.00%				
		合計																		
		11	異文化理解の姿勢と学びを深め、国際看護、国際保健医療福祉において貢献する国際的通用性の重要性を理解することができるようになった。	令和2年度(2021.3月)卒業生	34	30	18	0	0	0	82(件)	41.46%	36.59%	21.95%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%		
令和元年度(2020.3月)卒業生	18			26	12	1	0	0	57(件)	31.58%	45.61%	21.05%	1.75%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成30年度(2019.3月)卒業生	22			27	29	2	0	0	80(件)	27.50%	33.75%	36.25%	2.50%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成29年度(2018.3月)卒業生	10			30	34	14	0	3	91(件)	10.99%	32.97%	37.36%	15.38%	0.00%	3.30%	100.00%				
平成28年度(2017.3月)卒業生	11			37	48	8	0	0	104(件)	10.58%	35.58%	46.15%	7.69%	0.00%	0.00%	100.00%				
平成27年度(2016.3月)卒業生	11			24	41	3	1	4	84(件)	13.10%	28.57%	48.81%	3.57%	1.19%	4.76%	100.00%				
合計																				



ウー4 資格取得等実績

本学看護学部は、看護師及び保健師（選択コース）の国家試験を受験します。令和2年度卒業生の国家試験の結果は以下のとおりです。（助産師は助産学専攻として受験）

令和年度卒業生結果と比較すると、保健師、助産師において昨年度に引き続き 100%の合格を達成しました。看護師（令和元年度卒業生 91.3%）に関しては、前年度よりやや高い結果となりました。

看護師に関しては、引き続き学生支援センター（学修支援部門）等を中心とした学生支援を行い、合格率向上に努めていきます。

（令和2年度卒業）

職種	全国合格率（%）	本学				
	（新卒のみ／全体）	出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率（%）
看護師	95.4/90.4	99	99	91	8	91.9
保健師	97.4/94.3	18	18	18	0	100.0
助産師	99.7/99.6	14	14	14	0	100.0

（令和元年度卒業）

職種	全国合格率（%）	本学				
	（新卒のみ／全体）	出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率（%）
看護師	94.7/89.2	104	104	95	9	91.3
保健師	96.3/91.5	18	18	18	0	100.0
助産師	99.5/99.4	15	15	15	0	100.0

ウー5 学位（看護学）取得状況

令和2年度学位授与者：99名

（令和元年度学位授与者：104名）